

統合医療施設

テレビ電話で遠隔予防相談を実施
半年後には検査数値が顕著に改善

栗原クリニック東京・日本橋(東京都中央区)



最寄り駅が JR 東京駅(八重洲北口)と東京メトロ日本橋駅、という好立地のオフィス街にある栗原クリニック。ここで院長を務める栗原毅先生は、病名診断後の治療より、発病前の‘未病’時に‘予防医療’を積極的に行うことが重要だと主張し続け、予防医療の重要性を訴えるさまざまな活動を行っている。

たとえば、2007年には、一家に一冊あれば大いに役立つ、との思いから、700ページにも及ぶ『予防と健康の事典』(小学館)を刊行。メタボリックシンドロームに警笛を鳴らそうと2006年に出版した『内臓脂肪は命の危険信号』(小学館)は、2008年に台湾でも翻訳出版されている。栗原先生は、患者にとって、そして、地方の医師不足や医療費高騰など数多くの難問を抱える日本の医療にとっても、予防医療はその問題解決のカギになると確信している。

さまざまな予防医療の試みの一つとして、2008年10月から約5ヵ月間、「遠隔予防医療相談システム」の実証実験にも参加した。この実験は、慶應義塾大学が NEC と KDDI の協力を得て行ったもので(文部科学省の「先端融合領域イノベーション創出拠点」研究として慶應義塾大学が実施する、「コ・モビリティ社会の創成」プロジェクトの一環)、栗原先生は慶應義塾大学特別研究教授として、自身のクリニックの診察室から、遠く離れた奥多摩町(東京都西多摩郡)の過疎化が進む集落に暮らす約80名の住民に対して予防医療を行った。

具体的には、高齢者でも簡単に使えるテレビ電話を奥多摩町の公民館や集会場など、住民が立ち寄りやすい場所に据え置き、インターネット回線を使って80km離れた日本橋の栗原クリニックにつなぎ、毎月1回遠隔から実験参加者たちの診察を行った。すると、約半年が経過するうちに予想以上の効果が出始め、人々の体重や血糖値などの検査数値も改善していったのである。

テレビ電話やインターネットというと、何か機械的で無味乾燥な情報交換を連想させるところがあるが、実際にはお互いの顔が画面に映し出され、視線を合わせながら会話を交わすため、医師と受診者の間に密なコミュニケーションが生まれることになった。その結果、実験に参加した人たちの生活行動に具体的な変化が起こったのである。

●「血液サラサラドッグ」で、患者の予防意識を促す

「実は、モニター画面を通じた診察の方が、クリニックに通って来る患者さんたちよりも、お互いの目を見て話をしている時間の方が長いのかもかもしれません。クリニックの対面診察の場合、最近は電子カルテの普及から、医師はパソコン画面に向かい、横に座る患者さんの方をあまり見ずに会話をすることが多いのです」という栗原先生。実際、クリニックに毎月通ってくる患者さんに対して、その生活行動を変え、積極的に病気を予防してもらえるような動機付けをするのはとても難しいという。また、予防医療はすべて自費だが、病気になってからの治療は保険が適用されて安上がりだ、という誤ったイメージを持ち続けている人たちも多いのが現状で、先生は、治療よりも予防の方が如何に安全で確実かを来院す

る患者さんに訴え続けている。

最近では、脳梗塞や心筋梗塞など命にかかわる病気に至るのを事前に防ぐという目的から、血液の流れの良し悪しをチェックする「血液サラサラドッグ」を開始した。人間の毛細血管と同じくらい細くて狭い径を持つ検査キットに受診者の血液を通し、その流れの良し悪しを観察する検査である。これと同時に、全身の動脈のうちでも動脈硬化を発生しやすい頸動脈に対してエコー検査を行い、動脈硬化の進行具合を受診者が一緒にモニターで見ることができる。受診者自身が自分の血液映像や頸動脈の状態を見ることができるので、検査が同時に予防医療教育にもなっている。

■栗原クリニック東京・日本橋

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-6 岩上ビル 2階

TEL : 03-3516-2200

FAX : 03-3516-2212

<http://www.k-sarasara.com/index.html>